

NGU Now

厳しい状況の続く 今年の就職戦線

三月頃には、「ようやく、かすかにトンネルの出口が見えてきたように思われる」との発言があらこちで聞かれましたが、再び経済は霧の中に閉じ込められてしまいました。

一月中旬から、学生は多くの資料請求を企業宛に始めました(昨年の二倍、一昨年の四倍)が、企業では、採用計画が全く立っていないケースが多く見られ、中には採用経費の削減も加わり、請求に応じた資料作成が出来ない企業も続出し、女子については資料請求に全く対応してもらえない者も出る有様でした。

一方では、学生の就職活動への関心は、今までになく強く、三年次の一〇月から始められた就職ガイダンスへの参加者も従来よりも多く熱心でした。

企業研究も従来に比べ、業種を広げ、レベルも広げて行なうよう指導してきましたが、このことが逆に、手を広げ過ぎて、面

接での他社への応募状況、志望動機を説明する際のつまづきに成るケースも生じました。

また企業サイドでは、多数の応募者を抱えたため、常識試験での足切り、面接回数増加、前年度の「内定取消し騒動」から、歩留まりを考えた採用をしない、等によって、従来に比べて採用内定の声がなかなか出ないという、学生にとり、前年度に増して厳しい年となりました。

他方、多くの学生が多数の企業を訪問しているため、一部の学生はかえっていくつもの重複内定を抱かえるという状況も起こっており、調整には尚時間を要すると思われる。

先行き不安な経済状況の中では、特に、先輩の有無が企業選びの基準の中で大きなウエイトを持っており、OB訪問も真剣に行なわれています。また女子を中心として、さらに就職活動が継続すると思われるので、同窓諸氏の御援助・採用情報の提供をお願い致します。

就職

外国語学部第一回生 卒業と就職戦線

九二年度は、増設された外国語学部での初めての卒業を迎えた年であり、どんな方向へ就職して行くかが、期待、注目された年でありました。

しかし、同時に、バブル経済の崩壊に端を発した景気の落ち込みは、オイルショック以来の深刻なものとして就職戦線をも直撃しました。特に四大女子にとって最大の大量採用業種である銀行・証券・情報処理が最も深刻な影響を受けた業種となりました。

一学年千人体制の中で、女子が二、三〇人しかいなかった同窓生



諸氏にとっては思いもよらないことでしょうが、外国語学部の定員二〇〇名の半数が女子学生



と

は、大手企業を中心に、雇用機会均等法による「女子総合職」の意味を見直そうとしていた時期とバブル崩壊の複合は、就職活動には大きな重荷となりました。

これに加えて、就職協定の変更が行なわれ、採用活動は、「前年に比べて約一カ月早くなり、厳しい選考が行なわれる」と予想され、どの大学でも「一月末から従来の先輩の二倍以上の活動をするよう」に指導が行なわれました。この指導の徹底と大手企業の手想い以上の採用手控えにより、中堅企業にも求職者が殺到し、就職活動は更に厳しいものとなりました。

しかし、最終的には、男女共

●学科別就職決定状況

学科	経済学科	商学科	英米語学科	中国語学科	合計
1993年3月卒業生数	484	349	151	54	1038
就職希望登録者(A)	462	323	136	47	968
就職決定者数(B)	462	323	132	46	963
就職決定率A/B	100	100	97.1	97.9	99.5

に、まずまず満足の出来る結果となり、男子は勿論、苦戦した女子についても、最後まで就職を希望して頑張ったものについては、一〇〇パーセントが就職を決定しました。

年々希望者の増加している公務員についても、夏期・春期の特別講座参加者を中心として合格者が増加しており、外国語学部生を中心に教員採用試験合格者も増加しました。

(学生サービスセンター次長
山田直義)